

※当資料は、2020年1月28日に米国で発表されたプレスリリースの抄訳に、日本独自の内容を追加しています。

## マカフィー、多くの企業で管理範疇を超えたクラウド上に データが分散しているとの調査結果を発表

クラウドでは、毎月、何千件ものデータ損失インシデントが発生し  
機密データの侵害やコンプライアンス違反の高リスクに直面

### ニュースハイライト：

- 世界 11 カ国の企業の 52%が、侵害によってユーザーデータを盗まれたことがあるクラウドサービスを利用
- 世界 11 カ国の 4 社に 1 社（26%）が、日本では 3 社に 1 社（32%）がデータの動向を把握することができない未管理の個人デバイスにクラウドから機密データをダウンロードされた経験有
- 世界 11 カ国の DLP を利用して自社のクラウドサービスを監視している企業では、毎月平均 45,737 件のインシデントを確認。一方、企業の 37%しか対策を講じていない実態が明らかに

デバイスからクラウドまでを保護するサイバーセキュリティ企業である米国マカフィー（McAfee LLC、本社：米国カリフォルニア州）は、「クラウドの採用とリスクに関するレポート」の最新版「エンタープライズ スーパーノヴァ（データ分散編）」を発表しました。レポートでは、様々なデバイスからクラウドに亘る広範囲へのデータの分散を示すとともに、エンタープライズセキュリティにおける重大なギャップを浮き彫りにしています。回答企業全体の 79%が、日本の 85%が機密データをパブリッククラウドに保存していると回答しています。回答企業全体では平均 41 のクラウドサービスを承認しており、昨年から 33%増加しています。一方、日本では 52 のクラウドサービスが承認されています。また、何千ものクラウドサービスが、未検証のまま限定的に利用されています。さらに、回答企業全体の 52%が侵害によってユーザーデータが盗まれたことがあるクラウドサービスを利用しています。データへの可視性が十分に確保されていないため、侵害やコンプライアンス違反が起こる危険性が非常に高まっています。

クラウドサービスは、従前はオンプレミスソフトウェアで実行されていた多くのビジネスには欠かせないアプリケーションに取って代わり、機密データのクラウドへの移行を牽引しています。クラウドサービスへのアクセス時における個人デバイスの使用、クラウドサービス間でのデータの移動、ハイリスクなアプリケーションの無秩序な広がり、クラウドを利用する企業にとって、新たなリスクの出現を意味します。企業が安全に自社データを保護するためには、急速なクラウドサービスの採用に遅れることなく、常にデータの所在を把握し、どのようにデータが共有されているかを十分に理解する必要があります。本レポートをまとめるにあたり、マカフィーは 11 カ国、1,000 社を対象に調査を実施するとともに、3,000 万のエンタープライズクラウドユーザーから収集した匿名化されたイベントを分析しました。

「クラウドの採用とリスクに関するレポート：エンタープライズ スーパーノヴァ（データ分散編）」では、次のことも明らかになりました：

- **シャドーITがリスクを拡大**：レポートによると、クラウド上のファイルの26%は機密情報を保持しており、これは前年比23%増になります。クラウドサービスの91%は保持しているデータを暗号化していません。これは、クラウドプロバイダーが侵害された場合、データは保護されないことを意味しています。
- **個人デバイスはブラックホール**：回答企業全体の79%が、日本では84%の企業が個人デバイスから自社クラウドへのアクセスを認めています。また、回答企業全体平均で4社に1社が、日本においては3社に1社がデータの動向を把握することができない未管理の個人デバイスに、クラウドから機密データをダウンロードされた経験があり、日本においては個人デバイスに対する制御が全体と比べ、緩やかである実態が明らかになりました。
- **クラウド内での移動がリスクへの新しい道を開く**：コラボレーションツールの普及により、クラウドサービス内およびクラウドサービス間でのデータ移動が容易になり、データ保護における新たな課題が生まれています。クラウドサービスに保管されるファイルの49%が、やがては共有されています。機密データを含むクラウドで共有されているファイルの10個のうち1個は、一般公開されているリンクを使用しており、前年比で111%増加しています。
- **データ保護の新しい時代が間近に**：回答企業全体の最高情報セキュリティ責任者（CISO）の93%が、日本の86%がクラウド上のデータを保護することが彼らの責任であることを認識しています。しかしながら、回答企業全体の30%はSaaSアプリケーションを保護する技術を持つスタッフが不足しており、このような企業が昨年より33%増加しました。日本は、28%の企業がスタッフが不足していると回答しています。クラウドの急速な普及に、技術と研修が後れを取っています。

マカフィーのクラウドセキュリティ担当シニアバイスプレジデントのラジブ・グプタ（Rajiv Gupta）は、次のように述べています。「クラウドの勢いは止められず、データの分散により成長とリスクの両面に新たな機会が生まれています。データ中心のセキュリティは、デバイス、Web、クラウドに至るまでの制御を可能にするセキュリティであり、今日のクラウドファーストな環境では防御力不足となるネットワーク中心の従来のセキュリティ対策にパラダイムシフトをもたらします。」

#### 参考情報：

- [クラウドセキュリティの基本](#)
- [クラウドネイティブ:IaaSの採用とリスクに関するレポート](#)
- [McAfee MVISION Cloud](#)

#### マカフィーについて

マカフィーはデバイスからクラウドまでを保護するサイバーセキュリティ企業です。業界、製品、組織、そして個人の垣根を越えて共に力を合わせることで実現するより安全な世界を目指し、マカフィーは企業、そして個人向けのセキュリティソリューションを提供しています。詳細は <https://www.mcafee.com/ja-jp/> をご覧ください。

\*McAfee、マカフィー、McAfee のロゴは、米国およびその他の国における McAfee, LLC の商標又は登録商標です。

\*その他の会社名、製品名やブランドは、該当各社の商標又は登録商標です。

<本情報のお問い合わせ>

マカフィー株式会社 (<https://www.mcafee.com/ja-jp/>)

広報担当 戸田

東京都渋谷区道玄坂 1-12-1 渋谷マークシティウエスト 20階

Tel: 03-5428-1226 Fax: 03-5428-1480

[hiromi\\_toda@mcafee.com](mailto:hiromi_toda@mcafee.com)